

## 男性を対象とした家事行動に関する調査

## － 洗濯を事例とした意識と行動実態 －

○小日向知子 西條好江 武井玲子 肥後盛明  
ライオン（株）

【目的】家事の中心はまだ女性であるが、「介護」、「共働き」などライフスタイルや社会環境の変化により、日常的に家事を行う男性も多くなってきた。そこで、男性の家事参加への意識や行動実態を、代表的な家事のひとつである「洗濯」を取り上げて調査、考察を行った。

【方法】インターネットの当社ホームページを活用し、全国の「ひとり暮らしの男性」172人よりアンケートに記入後、メールにて返信、調査を回収した。また、家庭科学研究所のモニターより、身近な20～60代の男性約180人を対象に留置・自記入により、アンケート調査を行った。

【結果】ひとり暮らしの男性は衣類の基本的な手入れ方法として、「適量の洗濯物を入れる」、「洗剤を調節して入れる」は実際に行っている人が多いが、「表示別に洗い分ける」は行っている人が少なかった。また、ベテラン主婦の洗濯行動と比較すると、「手洗いをする」人の割合は少なかったが、一方、複雑な「黄ばみやシミ汚れを落とすために、洗剤液につけ置く」作業は両者ともほぼ半数の人が行っていた。家族と同居している男性は家事参加への意識は低い、掃除や洗濯の一部では日常的な家事への参加が認められた。

また、本調査結果と共に既報告のベテラン主婦、若主婦、ひとり暮らし大学生の同種調査と比較し、今後の企業からの情報発信の方向を考察した。